特養併設、本格カフェ

“生口島のレモン”売り

新生福祉会

新田楽生苑
山中圭介係長

社会福祉法人新生福祉会（広島県尾道市）が昨年11月に開設した特別養護老人ホーム「新田楽生苑」（東京都足立区）では、地域との接点をつくる足掛かりとしてカフェを併設。法人本部がある広島県生口島の特産品であるレモンをコンセプトとしたメニューや、スタイリッシュな店内を売りに、地域の人が集まる場を提供している。

「地域交流スペースが実際に機能するにはどうすれば良いか考えた末、本格的なカフェを併設することとしました」と吉井靖貴課長は語る。交流スペースがイベント時にしか使われないなど、地域貢献事業が一時的なものにとどまらないよう、日常的に通える場所を目指した。10時30分から15時まで、月曜日と第2・第4土曜日以外は毎日営業する。

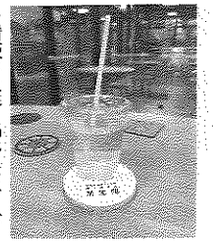
「カフェに来てもらうことで、地域の人に特養を知ってもらうきっかけにもなります」（吉井課長）実際に、偶然来店した高齢者が特養のことを知り、ショートステイ利用につながった例もある。

特養の周辺には住宅地が広がるが、地域の人が気軽に通えるようなカフェはほとんどない。近隣の高齢者や子連れの女性など、様々な世代の人が利用する。一度来店した人のリピート来店率は非常に高いという。「近所の川辺を走るサイクリストが集まる場にもなっています」とカフェの店長・山中圭介係長は語る。

▲スタイリッシュな家具が目を惹く店内

看板メニューは、生口島が日本一の生産量を誇るレモンを皮ごと使って作るレモネード。レモンの風味を最大限に生かすべく、専用ジュレも手作りする。コーヒーやカレー、ハッシュドビーフも提供。「今後は、時期によりメニューを変えることなども考えています」（山中係長）

壁一面が窓になっており、店長のこだわりでやわらかな木の風合いが際立つ上質な家具を揃える。広々とした明るい色彩の空間に仕上げた。イラストが得意なスタッフがパーテーションにイラストを描くなど、皆で作り上げたカフェだ。



▶看板メニューのレモネード

地域とつながり生む

来店契機にSS利用

ここを拠点に、地域の団体とのつながりが生まれつつある。「パントリー活動を行うNPO法人の人が偶然カフェを利用したことがきっかけで、特養の倉庫貸出などのサポートやコラボにつながりました」（吉井課長）

今後もこうした団体、法人と提携しながら、オレンジカフェなどのイベント開催も予定している。カフェに迷い込んだ認知症の高齢者を、地域包括支援センターと連携を取りながら自宅に送り届けた事例もあるという。

「ネットワークを活かしながら、何か困っている人が気軽に助けを求められる場所にできたら」（山中係長）との思いだ。